



# 子育てチャンネル

## カメラマンの子に生まれて

「大きくなったね」「小学校は楽しい?」。なかには「実物はかわいいね」とウチの2人の娘たちは会ったことがない人からこんな風に声をかけられることが多い。

2人はきよとんと顔に「?」マークが浮かんでいながら、タネを明かすと父親である私の写真ブログに、誕生日以降たびたび登場しているからなのである。そんなわけで、その読者の方は彼女たちの姿は何度も目にしている。

雑誌、パンフレットの紙面、音楽CDジャケットなどにも2人はよく登場している。

撮影は私がほとんどだけれど、ときどき別のカメラマンも撮影している。

そんな時には「カメラ慣れしてるね!」とほめられることが多い。

何しろ母親のお腹にいる時から、何度となく写真に撮られ続けてきた2人なの

だ。朝のまだ寝ぼけた顔から、ご機嫌を損ねて泣きじやくっている最中、お風呂上がり的大胆ヌード、はたまたトイレの用足し中まで撮られまくっている。

本人の意思に関わらず、「新しいカメラを手にした」「新しいレンズを買った」「機材のテストをしたい」……と父親側の事情が起こるたび、真つ先にモデルにされるのが彼女たちなのだ。

そんな環境に  
いるから、カメラを  
向けられることをいちいち  
気にしてられない、ある  
いはごく普通のことのよう  
に感じているに違いない。  
母親であるうちの奥さん  
は、ほとんど写真を撮らな  
い。女同士3人でお出かけ  
する時もカメラを持ってで



かけることは少ない。娘たちを連れて関西の実家に10日間帰省してきても、デジカメのカードの中の画像が10枚にも満たないこともあった。

子供の写真を撮るのは父親の役目、として定着しているのが家なのだ。

それ以外の私の役目といったら、朝の登園、登校の見送りとお風呂に入れることくらい。それすらも毎日必ず、と

はなかなかできない。仕事で忙しくなる夏のシーズンは、家族4人が揃うのは朝ご飯の時だけになることも珍しくない。

夜、家に帰ると「こんどいつしよにあそんでね」と手紙が残されていたりする有り様なのだ。

北海道の田舎暮らしを満喫、なんてことを夢見て移住してきたはずだった。ところが、幸か不幸か、せつせと仕事に励む日々であり、どうやら家族へ犠牲を強い

ている。  
子育てを任せっきりにして、  
「母子家庭だと思ってくれ」とうそをいっているダメ父だけど、せめて子供の写真はいっぱい撮って残してやろう、と思っている。それも普段の日常の暮らしの中で見える顔や姿を。  
奥さんは嫌がるけれど、散らかった家の様子が背景に入っているのも後になつたらいい記録になる。

わが子が大きくなって、たくさん写真を撮る一枚一枚見返す時、愛されて育ったんだ、ということが分かってくれれば何よりだ。

フォトシーズン (東11号南4)

飯塚達央